

「授業備品」N020 H. 28. 6. 25. 「中・高等学校学習スタンダード重点5項目」（6県に配布中）

授業は教師が教えるものではない。子供が自主的に仲間と学び合うのが授業だ。その授業を支える学び方（学習スタンダード）は、40項目ある。どの項目も大事にして欲しい。たくさんの項目があるが、下記の5項目は、ぜひとも毎時間の授業で取り組んで欲しい。指導者が自己流に陥りやすい授業を改善するためだ。

導入	問題(資料)の提示	1 授業の直前に下記の3項目を行う（授業直前指導3項目） ア グッズの掲示 ・シラバスグッズ（課題表） ・言語わざグッズ ・名札 イ ゴールの設定 ・ゴールの見通し ・ゴールの口欄の設定 ・口欄の上に「まとめ」と書 ウ キーワードの掲示 ・教科の専門性の向上 ・教科用語 ・学習用語 ・可視化 教科の専門性を高めるための一つの方策である。本時で使う教科用語(教科リーダーが作成)を黒板の端に掲示しておく。掲示してあるキーワードを子供と教師が黒板の中央で利用する。なお、キーワードは既習・未履修を含めた内容とする。
	問へをもつ・問への共有（果頭の役目）	2 学習課題の設定は子供自身が行うことが望ましい(教師が押し付けない) × 問題(資料)を提示した後、「課題を書きますのでノートに写してください。」と、しない。 教師の与えた学習課題では、子供には主体的な学びとならない。子供が問題(資料)に正対し、「問い」をもち、仲間と「問いの共有」を行う中で、解決すべき課題を発見する。学習課題は、子供たちが自ら、または教師との合作で設定するものだ。
展開	自力解決	3 自力解決が可能かどうかの確認 学習が苦手な子をもっと大事にする。自力解決に入った1分後には、子供に自力解決が可能かどうかをぐーパーの挙手をさせる。ぐー（困難）が多い場合は、最初からグループ活動を行う。パー（多くの子が解決が可能）が多い場合は、自力解決を行わせる。解決が困難な子は、仲間に聞く、アイディアを借りる、仲間のノートを写す等で学びの参加をする。
	集団解決	4 話し合いで協働的な学びをする(学級会の手法を使う)。話し合いの単純意見交換には教師は参加しない（スモールステップ禁止） (1)考えをまず出し合う(単純意見交換) 課題について自力やペア(隣・前後)や班学習等で分かったことや気が付いたことをまず発表させる。ここでは、単純な意見交換にとどめさせる。この段階で教師は子供の意見に反応しない。子供の言葉を拾わない。教えようとしない。解説しようとしない。子供の学びだからだ。スモールステップ（一問一答）は禁止。教えようとするから教師のおしゃべりが多くなる。教師主体となっていた反省を生かそう。 (2)出された考えを比べる(考察) 子供たちが「同類、相違、類似」の視点から考察をする。 (3)教師の修正 課題に迫りきれないとき教師が修正を行う。教師の出番はここである。
終末	面直の共有(まとめ) 振り返り	5 価値の共有（まとめ）と振り返り 価値の共有（まとめ）は、本時の課題に対応する内容である。教師が板書した内容を写させるのではなく、子供自身が自分の言葉で書くようにする。書けない場合は、リード文を示すとよい。なお、価値の共有（まとめ）の欄は、授業当初に板書しておく。 心の中を書く。また、次回の学習につなげる内容（わかったこと）を書く。本時で学んだ「教科用語」を書かせるとよい。次時につながる振り返りとなる。